第６回安曇野市新市立博物館構想策定委員会　会議概要

１	会議名　　第６回安曇野市新市立博物館構想策定委員会
２	日　時　　平成２７年５月２８日（木）　午後１時３０分から午後３時３０分まで
３	会　場　　安曇野市新庁舎　共用会議室３０２
４	出席者　　笹本委員長、石田副委員長、福島委員、小林委員、平田委員、浅見委員、滝沢委員、浅川委員、酒井委員、西垣委員
５	市側出席者　　教育長、北條教育部長、那須野文化課長、西山博物館係長、小倉文化課員、逸見博物館係主査、横山（乃村工藝社）、中瀬（乃村工藝社）
６	公開・非公開の別　　公開
７	傍聴人　２人　　記者　１人
８	会議概要作成年月日　平成２７年６月５日

会　議　事　項　等

１　会議の概要

１．　開会　（北條部長）

２．　笹本委員長あいさつ

３．　協議事項

（１）施設整備について

（２）安曇野市新市立博物館構想　構想書の構成

（３）Ⅲ安曇野市新市立博物館が目指す姿

（４）Ⅳ事業・活動構想

（５）Ⅴ展示構想

（６）その他

４．　その他

５．　閉会

２　会議概要

１．　開会

北條部長・ただいまから第６回の安曇野市新市立博物館構想の策定委員会を開催する。初めに、人事異動で私どもの係長が交代をしている。西山に代わったので、一言自己紹介をさせていただく。

西山係長・こんにちは。４月から文化課博物館係長に就任した西山といいます。２カ月ほどたったが、本当にまだまだ分からない内容が多くて、皆さんにご迷惑、またご協力いただかなければいけないところが多々あるかと思うが、よろしくお願いいたします。

北條部長・お世話になります。よろしくお願いいたします。

さて、今まで皆さまには施設整備の方向性についてご協議をいただいてきたが、委員会として新市立博物館構想の提言書をまとめていただくために、今回素々案の一部をお示しした。当日配布もあり、大変恐縮な部分もあるが、これについてご協議をいただきたいと思う。今日はよろしくお願いします。なお、本日は大月委員がご都合により欠席をされているが、委員会に関わります設置要綱第６条第２項の規定により、委員１２人のうち半数以上の委員が出席しているので、委員会として成立することを報告する。

それでは、笹本委員長からごあいさつをお願いいたします。

２．委員長あいさつ

委員長・今日は蒸し暑く来るだけでも暑くなってきた。長野県においては信濃美術館をどうするかという

非常に大きな流れが出て来て今いろいろな協議が始まっている。私どもの市においても新市立博物館をどうするかということでお集まりいただき、少しでもいい博物館にするために、あるいは将来に少しでも役に立つ博物館にするためにご協議いただいている。今日もできるだけ多くの意見をいただいて、少しでも良い博物館になるようにしていきたいと思うので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

北條部長・ありがとうございました。それでは委員長、この後の議事進行をよろしくお願いいたします。

委員長・それでは、ご協力のほどよろしくお願いいたします。終了時間はおおむね3時３０分を予定している。なお、いつものとおりこの会議は公開で行う。また、会議録を作成するために発言の前には必ず名前を名乗っていただきたい。よろしくお願いいたします。

３．協議事項

（1）施設整備について（前回資料）

委員長・協議に入っていくが、施設整備について事務局からご説明をお願いいたします。

那須野課長・施設整備の関係だが、これは前回資料に基づく部分で、もしなければお配りする。

前回ケース２とケース１についてご意見を頂戴していたが、ケース２については、新築の博物館を造らないケース３との中間案として、いろいろとご意見をいただいた。その中で、例えば収蔵施設が不可欠だというようなご意見があったが、それはできるだけ近くになければいけないだろうか。非常にお金のことが関わるので、お金系の資料を用意してほしい、また改築にあたっては、空調やトラックヤード、照明にも配慮してほしい等々のご意見を頂戴した。

この議事については議事録としてご覧いただけるようになっているが、時間の関係でご意見を聞くのが途中になってしまったこともあるので、まずケース２の宿題となっている部分についてご意見を頂戴できたらと思う。ケース２については以上。

ケース１については、手元に「全国の市立総合博物館の規模」という資料を乃村工藝社で用意している。安曇野市は約１０万人だが、どのぐらいの規模の博物館にしたらいいか、そういった基本的な価値観を共有するために資料を作っている。この説明をお願いします。

（事務局より「全国の市立総合博物館の規模」資料説明）

委員長・どうもありがとうございました。今日はできたら既に皆さまの元にお送りしている資料についても同時にやりたいので、まずはケース２について、皆さまのお手元には既に、前回いろいろ論議をした概要について送付されているので、足りないことがあったら言って欲しい。続いて、事務局で今までの論議を基にして整理し、第３、４、５で安曇野市の会議録全体をまとめた上で、博物館の機能にこういうことが必要だということも既に出ているので、今のようなお話を伺って、ケース１について今まで言っていないことがあったら言っていただく。それをやった上で、本日の主題である構想書その他の議論に入っていきたい。最初にケース２について、前回までで言い足りないことがありましたら、ご意見をお願いいたします。

那須野課長・言い残したが、Ａ委員から費用の積算が判断事由として大事だというご意見があり、それに対応して私どもも資料を調整したが、なかなかお金のことは非常にシビアで、今回ご提示することができなかった。この点は深くお詫び申し上げます。次回ある程度動かないしっかりした数字を持ってまいりたい。というのは、改修事業にしても、そこに何を入れるかによってだいぶ金額は変わってきてしまう。新しいものを造る場合は非常に分かりやすいが、古屋の造作というのは建て直したほうがいいという金額も簡単に出てしまう。ケース２において、どういう要素を入れていくかによって金額的も前後するので、そこの部分は今日もうちょっと詰めてご意見をいただいた上で、それらの要望に沿えるような積算をしてみたい。

委員長・先ほど配られた「全国の市立総合博物館の規模」の一番後ろを見ていただければ分かるが、例えば人口３万しかない壱岐島という九州の博物館は観光行政その他の生き残り策として全部を投げ込んでいる。従って、安曇野市がどのような博物館をつくるかという将来構想との関わりもあり、お金的な部分ではさまざまな意見が出てくるだろう。今回金額的な資料は出ていないが、その点はお含みいただき、ケース２についてこれは入れておいたほうがいいというようなことがあればぜひお願いいたします。

よろしいでしょうか。いま皆さんに縦に首を振っていただいたので、もし後で気がついたことがあったらその場でも結構なので言っていただき、２については今までの意見を集約して持っていくこととしたい。

続いてケース１について、今まで論議はしているが、これが足りない、あるいはこの点は特に強調しておきたいということがあればお願いいたします。私は、今までの会議録、意見のまとめ等を見ると、博物館のあるべき姿については非常によく論議されていると思う。それをどのようなかたちでやっていくかは、市が面積をどれだけ用意してくれるのか、お金をどれだけ用意してくれるのかという部分等も関わってくる。理念的にどういう部分が必要であるかは、随分論議されていると思うが、１の新たなものをつくる場合、論議しておいたほうがいいことがあったら、ぜひお願いしたいいたします。

では、ケース１、２について論議をし、その上でまとめたことを確認する。

それでは、今までの部分に関してはご理解いただいたということにして、安曇野市新市立博物館構想、構想書の構成について事務局からご説明をお願いいたします。

（２）安曇野市新市立博物館構想　構想書の構成（資料１～４）

（事務局より資料１～４．構想書の構成、Ⅲ安曇野市新市立博物館が目指す姿、Ⅳ事業・活動構想、Ⅴ展示構想の説明）

委員長・どうもありがとうございました。それでは論議をしていきたい。

まず、資料２の「基本理念」だが、皆さまのお手元に体系図があると思う。すなわち第一次安曇野市の総合計画においては、将来の都市像として「北アルプスに育まれ、こころ輝く田園都市、安曇野市」とある。とすると、「北アルプスに育まれて心が輝くような」というのが前提になる。その上で、安曇野市の文化振興計画の中では「学ぶ心が育ち、文化のかおるまちをつくります」ということで、基本方針として「郷土の歴史的・文化的遺産や伝統文化、古文書などが保存・継承されるとともに、創造的な芸術文化活動が活発に行われるまちを目指します」というふうにやってきた。さらにその中に幾つかの分け方をした上で、主要施策の中で「感じたい安曇野の文化」という第３節以下に、文化、芸術施設の整備充実をうたい、ここに博物館等も入っている。こういう大きな流れの中で、基本理念が合致しているかどうか、そしてこの基本理念がどこへ持っていっても金太郎あめみたいに同じようなもので、ちょっと地の名前を変えればそれでいいというレベルなのかどうか。そのへんを確認していただき、その上で次の論議へ進んでいきたい。

まず、私たちにとって最も大事な「基本理念」はいかがか。

委員・先に、全体を通して一つだけ質問がある。本章の表現問題だが、例えば１ページの理念で、上から２つ目の大きな見出しで、「安曇野の文化を守る」でスペースがある。続いてまたスペースがあって「育てる」、またスペースがあって「つくる」と。こういった使い方が以下たくさん出てくるが、これは意識してやったことか。意識したとすれば、何を目的としてこのスペースを入れたのか説明をお願いします。

コンサル・これは意識して入れている。その意図は「守る　育てる　つくる」と一つひとつの単語が目的というかそれを強調する意味でスペースを入れている。

委員・以下、例えば４ページの（１）の下、「安曇野と自然と暮らしが育んだ」、それでスペース。「有形無形」。以下これも同じことか。

コンサル・はい、これも意識して入れている。

委員・そういうことですか。

コンサル・一続きで文章につなげてしまうよりは、そこでスペースを入れて一拍置くことで、それぞれで言っていることが伝わりやすいかなという意図で入れている。

委員・では、最終的にここで了解されれば、これが印刷されるということでよいか。

那須野課長・基本的理念なので、あくまでもたたき台で、皆さんのご意見で一からつくり上げていただいて全く構わないというスタンスなので、自由にご意見を出していただければと思う。いい悪いも含めて、もっとこういう視点での基本理念はどうなのかなど。一番構想の根幹に関わる部分で、今までの文化振興計画との整合性も図りながら、というかたちでないとまずいと思う。

委員・今聞いた考え方であればそれでいいと思うが、私が読んでいて気になったのは、例えば１ページの最初の見出し、４ページに出てくる空白の部分は、句読点で十分足りると思う。わざわざスペースまで入れて強調する必要はないと考えた。私の意見ではあるが。

委員長・今のはすごく大事で、この文章を含めてこれはたたき台にすぎない。これは私たちが好き勝手に変える、あるいはあくまでも私たちが論議をするための材料にすぎないので、委員が言われるように、句読点でいいとか、むしろ強調するなら他の手段もあるはずだなどの意見。それから例えば、最初の部分の言葉「安曇野文化」自体が私は気に入らない。

これが出発点になって基本理念が前提にならなかったならば、目指す博物館ができないので、「こういう文章もあるよ」とか「このへん気になるよ」とかいう意見もぜひ寄せていただければと思う。

副委員長・「安曇野文化」という言葉だが、いわゆる市で出している文化雑誌に、かつて三郷文化であったものを安曇野文化と編集されているものがある。構想書の「安曇野文化」は、これと別の意味なので、例えばかぎかっこ、二重かっこ、かぎくくりなどにするなど、別の意味で区別をしないと、同じ言葉がいろんな場面で併用されるときに独自性が保たれるかと思う。

それから、A委員がおっしゃったように、「守る　育てる　つくる」もそうだが、公文書あるいはきちんとした日本古来の表現の仕方でいうと句読点が入るはずだし、それを意識するならばしっくりする表現の仕方があるので、そういったことで対処できはしないかという気がする。

委員長・実は私も、まず「安曇野文化」というのは「安曇野の文化」であって、安曇野文化というのが存在しているわけでもないだろうという気がしていたのが一つある。そうすると、「守る　育てる　つくる」が、私たちがずっと主張してきている強調すべきことなので、場合によってはこっちへかっこを持っていくほうがずっと話は分かりやすいだろうと思う。これはタイトルなので、私たちの気持ちが一つにならなかったらよくないだろうと思う。副委員長からも言っていただいたが、皆さんからご意見いただけたらと思う。

委員・「安曇野文化」ではなく、かぎかっこを外して安曇野の文化でいいのではないか。かぎかっこをつけるとしたら「守る　育てる　つくる」を強調して文章化したほうが分かりやすいと思う。

委員・安曇野は、なかなか耳触りが良く、それが市の名前にもなったが、安曇の地の歴史の中で見ればまだ浅い。ここはやはり安曇だと思う。それも含めて、恐らくこの総合博物館は安曇の中における安曇野の位置という、今後の安曇野の位置というのを探求していくその基になる博物館であり、文化的にもそういうものをつくろうということ。だから、あまり厳密に安曇野にこだわり過ぎると、にっちもさっちもいかなくなる気もする。安曇野市の施設であるから安曇野市の方向性や目指すものに規定される博物館であることは間違いないと思うが、歴史はもう少し広いところから見なくてはいけないという側面もあるので、そういった総体的なものだという感じで捉えたほうがいい。市の名前は確かに安曇野市だが、極端な話をすれば安曇野市がずっとあるかどうかという話もある。歴史の一コマとしての安曇野であることも、あと百年後、二百年後はあり得ると思う。だから安曇は千数百年続いてとりあえず安曇野にバトンタッチというイメージだと思う。そうした位置づけが展示の中でも活かされてこないといけないと思う。そんな歴史博物館、総合博物館だとすれば、そうした流動的な中での現時点での私たちである。そのような緩い目で、しかし少し達観した目でこの地域を見る、そんな発想も必要だと思う。議論に賛成とか反対ではないがそうした感想を持った。

委員長・具体的な言葉は無いか。例えば…

委員・「安曇野の文化」でいいのではないかと思う。かっこをつけると、それがあるように見えてしまうので、安曇野の文化という表現で。あまりこだわらずに。

委員長・それでいかがか、皆さん。というのは、何度も言うとおり明科は筑摩郡だった。だから、安曇野という新しい市に文化を創ろうという意味でも、ここにかぎかっこなどは一切いらないと思う。むしろ「守る　育てる　つくる」に私たちは理念を込めてかぎかっこをつけるという方向に持っていきたい。

下の文章等で何かお気づきの点はあるか。

委員・気になったのは下から７行目の「安曇野文化は古くから市民の手によって築かれている」。「古くから市民の手」ということに私は引っ掛かった。安曇野市になったのは１０年前であって、それよりずっと前は市民という言葉はあり得ない。４ページに「先人」という言葉が出てくるが、普通に考えれば素直に「先人」だと思うが。

委員長・これは論議するまでもなくそのようにしたい。「古くからの先人」という言葉にさせていただく。

委員・先ほどから言われるようにやはりかぎかっこを外して、安曇野の文化を守るではなく「守り育てる」、育てるではなく「育てつくる」とすると流れがいいかと思う。

委員長・ありがとうございます。確かにそうだ。私たちとしては、「守り」というのは博物館の資料を含めてであり、「守る」というより「育てつくる」だと。少し流れをよくするため言葉を変えさせていただきたい。ここはすごく大事な点で、基本理念がしっかりしていればあとはそれに応じて動いていくので、私たちとしてまずは、文化を今までの古いものを守ると同時に新しいものを育て、そしてもっとより良いものをつくるという流れにできればと思う。

「平成１７年度」が当たり前に出てきてすごく気になるが、最低でも後ろには西暦を入れるべきだと思う。市では当たり前か。歴史家の場合は逆に西暦のみでいいと言う人のほうが多いということもある。ある程度みんなに分かってもらう必要があると思うので、平成１７年と書くのであればできたら西暦は入れて欲しい。

委員・私もそれに賛成である。併記をぜひして欲しい。

委員長・そうした細かい点でも結構なので、もしこの基本理念の最初の一文の部分に訂正すべき点等があればお願いいたします。

委員・根本的なことだが、構想書の資料１を含めて、コンサルタントで作成されたものか。

コンサル・市からの仕様書に基づいてこのような構想を……

委員・市とコンサルタントの関係というのは、言葉を選べないのでそのまま率直に申し上げるが、お願いという声掛けだけか。

那須野課長・業務的には構想策定の補佐であり、この委員会での議論を斟酌して、オーダーすべきことを指示して内容を調整して出していただいている。

委員・市の中での討議、討論それから上も含めたディスカッションが当然あるということか。

那須野課長・ある。それは市の庁内の構想策定委員会と学芸員の課内の作業委員会、それと並行してやっている。

委員・実質スタイルに文句を言うつもりはないが、私が博物館の設立に関わった当時は、コンサルタントは非常に重要な役割を果たした。だが表に出るときは、事務局がきちっと出て対応するというのが私は基本じゃないかと思う。そのように一度咀嚼しないと、事務局が受け止めてそれを育てていかなくてはいけないので、立派なコンサルタントの意見でも育てられない。そういうところに言葉の問題も含めてすごく引っ掛かった。一度投げかけられて議論を相当していれば、そこで何らかの修正がある。そういう部分ではないかと議論を聞いていて思ったので余計な話だが。すみません。

委員長・ありがとうございます。これはやはりすごく大事で、基本的に構想書は私たちの責任で作るのだが、その前に私たちと市、それからそれにお手伝いするコンサルタントという流れがあるように私は思っている。だから私どもの意見をここで全て論じられなくても、市のほうがある程度、本委員会はこう考えているから、ここはこう直して欲しいということは今後もっと言ってもらわないと。

今、委員が心配されているのは、これも大変失礼な言い方だが、どちらかというと乃村工藝社の場合は極めてできてしまう。でもやはり本来主体になるべきなのは市民であり、われわれであり、市の職員だというご意見である。それはそのようにしていただきたい。細かい点まで今日ここで全部やるのではないように注意していただきたい。

委員・一つだけ言いたいのは、要素を分割して、こういう要素から成り立っていることを検討されるのはとても上手だと思うが、分解したものをもう一遍組み直すところは、この地域の人間でなければたぶんできないと思う。その組み立ての部分が、私がざっと今見たところ読み取れなかった。分けて要素を挙げるところはいいと思うが、それで展示できるかというとたぶんできない。それをもう一遍組み上げて、具体的に言うとストーリーをつくらないといけないので、そのストーリーはたぶん地元というか、この安曇野市に住んでいる人間がつくるしかないのではないかと私は思う。

委員長・そのとおりだと思う。それはまた後ろのほうで論議していきたい。まずは基本理念として、大きな部分では皆さまのご意見で「安曇野の文化を守り、育て、つくる」という流れに持ってき、今のような言葉を少し直していただき、住民の視点からという方向に持っていくということにさせていただきたいと思う。

委員・私ばかりすみません。最後の３行が、言葉は非常にきれいだが何かしっくりこない。「他者や社会とつながる」とか「未来を築く主体へと育つ」、最終的に「そういう成長する博物館を目指します」という部分は、もう少し分かりやすい表現がいくらでもあると思う。あまり冷たい表現でなくて、分かりやすい表現で組み立ててほしいと思う。

委員長・今のようなことをどんどん言っていただきたい。

委員・今のご意見にプラスだが、一応基本理念の中で「学ぶ心が育ち、文化のかおるまちをつくります」という基本理念が据えられているので、この最後はやはり「安曇野の文化がかおるまちをこれから市民とともにつくっていきたい」というような文章に変えるといいかと思う。

委員長・ありがとうございます。実はそこがすごく大事でして、市の理念があり、それに従って私たちもやっているのであって、博物館は決して博物館として勝手なことをやっているのではないということを主張するためにも、委員の意見はすごく大事なので、それはぜひ入れたいと思う。

委員・上から４行目、「安曇野文化」というかぎかっこから「地域の宝と捉え重視するとともに」というその後の部分だが、安曇野の文化に変えると文章的にしっくりこないので、そこをもう少し分かりやすくしていただきたい。こうしてほしいということは言えないが、安曇野の文化という言葉に変えたなら、それなりの文章にしていただけないかと思う。この文章はかぎかっこの文章だと思う。

委員長・ありがとうございます。今日私は全体を取りまとめてこうしようという気は、極端な言い方をするとない。むしろ皆さんからたくさん意見をいただいて、それを宿題にもう一回練ってもらって投げ掛けてもらったほうがいいと思うので、このように意見を出してほしい。ここでそれぞれの意見も違ってくるだろうと思うので、今のような言葉、今のような意見を次々に出していただけないか。

委員・この基本理念を主張する主体は誰か、主語は誰かということだが。私は、これは市民だと思うが、その市民感覚が少し市民から外れた点から述べている部分があるかと思う。

委員長・ありがとうございます。この理念の中に市民感覚をきちんと入れるようにというご意見である。とりあえず今のように、基本理念をもう少し全体として市民感覚で、私たちが言葉から伝わってくるものがあるようなかたちに練り直すという方向に持っていきたい。

続いて基本方針だが、２ページ、３ページの基本方針について、ご意見があればお願いいたします。

委員・総花的というか、あれもこれもである。だからあとも全部そうで、これを全部はやりきれないし、ではわが市の特徴は何、博物館の特徴は何かが見えにくいと思う。

委員長・私も実はこれが一番大きい。これはべつにうちの市でなくても全て共通性があり、しかもいったん書いたら、われわれはこのとおり相応する典型をつくらないといけないというところまでいく。総花的過ぎて、これで安曇野市は本当にできるのかと。もしこうなったときには、面積からはじまりとんでもないことになるのではないかと、すごく強く思った。まずは全体的な話をしていただき、この中で、あるいは「展示方針等」のときに、できたら、あまりにも量が多すぎるので削って、何

を主体にすべきかをわれわれの意見として持ち込まないと駄目だと思う。

委員・基本理念と基本方針の関係が全然ないと思う。要するに、基本理念の中には当然基本方針の中の柱になるべき部分が序列を持って書かれていて、その中での基本方針の①から⑥も序列があるはずが全くない。今のご意見に賛成であるが、要するにここを核にして、こういう広がりで基本方針に取り組んでいきますというふうにしないと。それは基本理念の中に当然そういうことはやんわりと、ゆったりと入っているということだと思う。それがないのではないだろうか。

委員長・流れとして、やはり理念の下に方針がつくられてきているはずなので、今のような理念で述べたことがどのように行くかということが大事である。今の話を可能にするには、この組み直し、そして、できたらきちんとここは重点ですというのをやっていかないとまずいだろうと思う。

委員・この①（自然共生性博物館）などの６つは必要か。これを入れてしまうと、それに関して全部やらなくてはいけなくなり、本当に大変なことになるのではないかと思う。凝り固まってしまったらそれに対してやらなくてはいけなくなってしまうので、最初の基本理念の中の、例えば「成長する博物館」だとか、「つなげていく博物館」だとかいうもののほうが、展示するときに内容が選べるようなもう少し自由になるような方針にしたらいけないだろうか。

委員長・私もそれは大賛成である。これは言い過ぎかもしれないが、今まで自然はすごく大事だという意見がたくさん出てきた。でも、この委員会の中では「安曇野市そのものが自然なんだ」あるいは「安曇野を歩いてもらうんだ」という意見のほうが強かったように思う。そうすると、博物館は展示施設というよりも、むしろ屋外に出ていくためにはどうするかを考えるべきかもしれない。今日のお話だと、自然共生博物館が第一に重要だ、とぽーんと出てしまっているが、こういうかたちで流れてしまうと本当にそうなってしまう可能性がある。今日の議論は、まずは理念と方針がどういうつながりを持っているのか、総花的でないのか、理念をやるためには一体どうしたらいいのかだった。そして、これが方針ということは、それに縛られた博物館ができ、また、今までの話のとおり、お金の問題、面積の問題等も全て絡んできてしまうので、少しでも縛らないというか、そういった配慮が必要になるだろうと、これもすごく大事な意見だと思う。

まずはそういう意見を次々に言っていただきたいと思う。

副委員長・前のところで「守り、育て、つくる」というやさしい言葉になった。私は穂高の西川久壽男先生に師事したことがあるが、その先生が「中学生に分かるような文章で書きなさい」といっていた。今ここに並べられていることは大変固くて大人向きで、いわゆるかつての博物館の冷たくて固くて入りにくい気持ちがする。例えば、１番であれば「自然とともに」、２番でしたら文化継承ですから「伝えたいもの」、あるいは「大人も子どもも」、あるいは「深く求めて」というような言葉にするほうがよっぽど子どもたちも見て分かってくれるし、共有できる表現ではないのかと思う。いかがか。

委員長・ありがとうございます。今の意見ももちろん大事なことで、私はいろんなところに関わっているが、博物館構想とか博物館の理念は読んでもらう可能性が全くない。実はまた文化振興策で他の市のものに関わらなければいけないが、文化振興策の本を作っても誰も読む気はしない。基本的にはそうであろう。実は私は山梨県の博物館をつくるときに、固い文字がずらっと並ぶのではなくて、『私たちが目指す博物館像』という子どもたちに読んでもらうような冊子をみんなで作った経験がある。私たちの意見が少しでも多くの人に読んでもらえるような雰囲気に持っていくためには、今、副委員長から出たように、言葉にちょっと心を込めて、できたら最低でも中学生に分かるレベルまでかみ砕く。私たちの側からすると、説明したような気になってしまうので言葉は難しいほうが楽。やさしい言葉でやるのはものすごく難しいことだが、新市立博物館を教育のとか、「守り」とか、「育てつくる」というならば、この理念、基本方針も新たなものをつくっていきたいと思うので、今のような言葉に重きを置きながらやるようにしたいと思う。

委員・基本方針のかっこの部分は、確かに言葉としては難しいと思うが、その後に書かれている文章は中学生ぐらいなら十分に分かると思うし、みんなで一語ずつでもまとめあげていけばいいと思う。この基本方針は私が見たところでは、今まで私たちが検討してきたことそのものを非常によくまとめ

てくれているなと思うので、あまり批判をしたくないというか、受け止められる内容でまとめていただいているのではないかと、そういう意見もあっていいのではないか、と私は思う。

委員長・これは意見ですので、先ほど言いましたように、いろんな人の意見を出していただき、最終的には私あるいは事務局等でまとめさせてもらう。今のような意見もあることを承知した。

他にあるか。よろしいか。

では次の役割だが、これは今まで私たちが博物館とは何かということで一番論議を繰り返し、現場を見てきたところに直結している。４ページ、５ページを見て、ご意見等お願いいたします。

委員・また言葉、単語ですが、（１）の説明の２行目。かっこ付けで「心」という単語が出てくるが、非常に引っかかる単語だと思う。私はちょっと古い人間なので、道徳的な「心」という捉え方をしてしまう。特に最近は、非常に心、心と押し付けがあるというか、学校現場も汲々としているようなところがある。ここを安曇野ならではの、例えば気質とか気風とか精神とか、いくらでも他の言葉に変えられると思うが、そのようには直らないものか。

委員長・ご意見なのでどんどん言っていっていただければ、直す直さないも含めてきちんと処理させていただく。今のように言葉に関しては、個人的な部分、経歴、生きた時代によって引っ掛かる言葉が出てくるだろうと思う。そういったことに関して、「私は引っ掛かる」ということを言っていただければ、できるだけ対応するし、中にはそうは言いっても・・・、ということが出てくる。そういったことでも結構なので、４ページ、５ページにご意見をさらにお願いいたします。

委員・かっこ書きの「物やこと」の「こと」とは具体的にどういうことか。理解できなくて申し訳ないが。

委員長・これは参考までに教えていただきたい。

那須野課長・分かりにくいですね。事柄などと言えるが検討する。

副委員長・いらないものが入ってきている。例えば「無形の文化遺産は先人の創意工夫の蓄積から生まれ、後世に伝える貴重な資源です」というようにすれば分かりやすくなる。「有形無形の文化財」と言っているのだから、妙なもの、夾雑物を入れず、それをまたかみ砕いてから解きほぐしてちょっと表現を工夫すれば悪くはない。あまりお飾りを付けるよりは、流れのいいものにしていただければと思う。

委員長・ありがとうございます。今のご意見は大体安曇野的。安曇野はあまり飾らなくて率直にやるところに特徴があると思う。

委員・用語としての「創造」はいいと思うが、「育成」はどうしても納得というか、落ちない。昔は教育普及とか、普及、教育、などの言葉を博物館は平気で使っていたが、今はそういう言葉はほとんど使わなくなっている。「育成」は一番強い。私から見ると一方矢印のような気がする。AからBの方向に向かって教えられる者と教える者がいる。つまり育てる者と育てられる者がいるという前提でないと「育成」という言葉は使わないと思う。最近は相互の矢印の関係である。博物館とその利用者との間に相互の矢印があって、場合によっては博物館の職員が育成されるということすらあり得る状況になってきている。博物館の職員が育成されるということであればいいと思うが、「若者の担い手を育成します」と最後に書いているから、この用語はそうではない。お互いに影響を与え合うということは、博物館側からも影響を発信するし、市民からも博物館に対して発信してお互いに成長していくということだと思う。最近はそういう流れだと思うので、それを的確な言葉で表現していただいたほうがいい。

委員長・ここが知恵の出しどころで、「育成」に関するいい案はないか。他のところは大体管理任意になってくるので。

委員・この話は難しい。

委員長・これは宿題にする。せっかく今までに二つずつ単語が挙がっているので、「育成」という私たち博物館とか市の側が上に立つのではない、何かちょうどいい言葉がありましたら、途中でも結構なのでご示唆いただけたらと思う。雑談のようになってしまうが、私どもの大学は今までに信州大の放送公開講座などもやっていて、公開「講座」っていかにも大学の先生が教えてやる主義というのをやめようと、まだ名前がどうなるか分からないが、次からは高校生が大学の先生たちにむしろ聞く

という、大学の先生たちも高校生に分かるような説明をしなければいけないという建前に変えた。

委員・例えば「共に学び合い」とか、そんなな言葉でもいいかと。

委員・２字で。

委員長・見ていただければ分かるとおり、全て２字の漢字に並んでいるので、できたら言葉のリズムとして２字にしたいので何かいい字はないか。

委員・そういうことですか。はい。

委員・私も委員さんと同じだが、「学び」と「創造」としたらいいかとは思った。学び合うというか。

委員・学び合う。

委員・「学び」。

委員長・学び。

委員・それと「創造」。

委員・いいかもしれない。

委員長・学び。ここだけ平仮名で「学び」までで切って、「創造」にしませんか。

委員・そうです。

委員長・それだったらいい。

委員・いいですね。

委員・学芸員も学び、市民も学びにする。それでいいと思う。

委員長・とりわけ市長さんをはじめとする行政はもっと学んでほしい。心を込めまして「学び」と「創造」と続けたいと思う。

委員・ここにも何箇所か「安曇野文化」という言葉が出てきているが、それは全部「安曇野の文化」と直していただいて、それに合う言葉を周りにつけていただけたらと思う。

委員長・はい。そのようにたさせていただく。というのは、何度も言ったとおり、安曇野文化を限定したものとは考えたくない。そしてまた私たちも創っていかなければいけない。先ほど委員から意見があったとおり、言葉としてもまだ定着してそんなにたっているわけでもない。しかも、これは単純に安曇野市の文化という意味ではない。もっと幅の広い部分もたくさん出てくるので、一応原則としては「安曇野の文化」とすると。それから、かっこ書きはやはり相当注意をしたいと思う。私たちのほうで、単純なものじゃなくて強調したい部分、私たちの理念になるようなところに入れるようにする。

委員・５ページの上だが、これは過去の感覚的なことなので全く外れているかもしれないが、「利用者を受動的な存在にとどめておかず、能動的・自立的な学習者・表現者と捉えます。」こういう表現は、やはり市民が主体的に積極的に学んで参加していくという表現にしたほうがいいと思う。

委員長・ぜひそのようにしましょう。というのは、私たちも市民の代表としてやっているのであって、市民の代表の私たちが何となくお高くとまって指導してやるんだぞというのは、おこがましいと。

委員・そうですね。

委員長・私たちとしては、流れ全体の中でそう持っていきたいと思う。ほかに意見はあるか。もしよければ次のほうに入っていくが、２に関して、委員の皆さんには熱心に見ていただいた。私たちが何をしなければいけないかということは、まずは理念に関わる。理念の下に方針ができて、具体的な博物館の役割と連動してくる。しかも、これを読んでもらうためには、もう一回文章等も考え、なおかつ市民目線でしてほしい。これは全体の意見としてすごく重要な点だと思います。

時間等の関係もあり、最終的には事務局と私で直して皆さんの了解を得る場合もあるが、これはあくまでも１回目として今のような意見もきちんと中に入れ込めるようなかたちに、できるだけ持っていきたいと思う。

（４）Ⅳ事業・活動構想（資料３）

委員長・資料３の事業・活動構想に入っていく。この事業・活動構想の上に、さらに展示構想と進んでい

くので、まずは事業・活動構想の１、収集・保存事業から見ていきたい。ご意見等があったらお願いいたします。

なお、今までのとおり安曇野文化や何かは既に直すことに決めたので。

いかがでしょうか。ただ、先ほどの話の中に出てきた基本方針の作り直しによって、ここのところは変わってこざるを得ない部分もあるが、一応何かありましたらどんどん出してほしい。

委員・役割の部分に関連するが、たぶん順番としてはそうだと思うが、１番が収集・保存になっているが、市民が何をこっちに向け利用するかということを考えると、まずは展示なのかなと思う。博物館が何を大事にしているか、市民は何を大事にしているか。それによって、この収集が必要だとか、この研究が必要、発信が必要ということかと思った。４つ、並び順を考えてもらいたいと思う。

委員長・これについては委員のご判断で。

委員・これは非常に微妙な問題ですね。博物館の本質と、それからサービス業としての博物館と両方の兼ね合いの問題だと思う。本質的な役割は、やはり後世にきちっと資産を伝えていくこと。ただ伝えるだけでは駄目で、税金を使うので、今生きている私たちに、どうしてそれが伝えられなければならないかを、きちっと説明できるような普及、展示、理解を求める活動をする。そして、その延長線上に、リアルに私たちの子孫にその資産を引き継ぐ。そういう活動からいくと、一番大事なのは何かと言うと、基本的に言うとやはり収集・保存。だが、今生きている、それに税金を払っている私たちからすれば、それは見えにくいので、展示が一番。普及などオープンの部分というか、表の部分というのは二の次。このつり合いを書類上どう捉えるかという、ちょっと技術的な話になるかもしれないが。

歴史館を造るときにも、実は基本構想では機能の順番は、博物館の基本的なところは収集・保存、調査・研究、そして展示があって普及。当時は普及があった。という順番で構成したが、いよいよ博物館を建設するとなって、県民向けにアピールするときには、どこが一番いいかといったら展示。

そういう性質のものではないかと思うので、決して役割で収集・保存が一番だから、この博物館はそこしか要らないという意味ではなく、誰に向けて発信するかということ。それをうまく工夫していただければいいという気がする。そこも含めて理解してもらうということではないか。

ただ、私もどちらかというと学芸員の立場としては収集・保存が大事だと思う派だったので、それが県民向けになったら、突然収集・保存が最後になった。展示があって普及があって調査・研究があって保存という順番に並び替えられた。ええっ。いつから順番が変わったんだと、そういう経験をした覚えがあるが、それは市民目線からすれば当然だなということ。

委員長・私もやはり収集・保存が一番だと思う。基本的に市民のサービスだけを考えるのではなくて、もっと前、将来まで考えると、博物館が一番やらなければいけないのは、きちんとした収集をして保存する、その体制があることが大事。展示はその時々に流される。１０年前の展示と今の展示は全く違うし、主張もすごく違う。でも守らなければいけないものを守るという姿勢は、私はすごく大事だろうと思う。今日も午前中、私どもの博物館でいろいろやってきたが、実は一番普通の人が目に付かない部分が収蔵庫であり貴重書。ここの部分は目に付かないからこそ、逆に私は理念を持ちたい。こちらの博物館協議会でもよその博物館の収蔵庫に行く機会があった。例えば山梨県立博物館の場合も、最初に造ったのは収蔵庫で、１年間ぐらい空気を抜いて化学物質を抜いて、そこにものを置く。それは私たちの感性の問題だと思う。博物館、美術館で、展示はどうでもできるけど、収蔵の部分をしっかり収集しておかなかったら次の時代はつくれない。しかも私たちは実はここが一番弱い。というのは、私たちは一定の価値観でものを考えてしまって、今まで気が付かなかった収蔵品が実はすごい価値が出てきたり、今まで大切に思ったものが大した価値を持たなかったりするようなことはたくさんあるが、いずれにしろ収蔵はすごく大事だと。

収蔵するということは、ここの全体の安曇野の自然と暮らしの文化に気が付きましょうというメッセージとセットになるので、収集・保存を最初に置くことに関しては、全く私としては違和感がない。これも意見なので、それぞれ皆さん言い合っておけばいいので、後は同調したいと思う。

副委員長・こういう例があった。研究で私にある出版物が送られてきた。それを見ると、解説の部分に写

真や解説がいっぱい並んでいる。いわゆる展示なので、これは立派。ところが後ろのリストが、場所によっては詳しいが、例えば三郷村とか堀金村の旧村のリストはまるでお粗末。こんなものでよく本を作って送ってきたなと。僕のところへ送ってきたのには、それをここに収蔵しろという暗に命令だと思うが。

すなわち展示と収集は表裏一体のもので、展示はきれいだが、資料の収集がまるでなっていない。資料の収集がきちんとできていればいるほど、その展示の仕方に充実性、信ぴょう性、説得力が出てくる。

そういう意味では、野暮な言い方をすると１とか２とするからいけないので、これも大事だしこれも大事。どっちを大事にするかはそのときに、その運営の方法でしっかり研究しなきゃいけない時期もある。その成果をどう展示するかというアピールができるか。そんなふうに考えてはいかがかと思う。

委員長・はい、ありがとうございます。基本的に皆さん全員、根幹として資料収集が大事だということは共通の理解なので、この１、２、３の番号はこういうかたちでは振らず、皆さん全員が同じさを確認した上で、こういう役割を各課は持ちますと持っていきたいと思う。

委員・先ほどの話に戻ってしまうかもしれないが、発信・連携事業の中に展示活動が出ている。

実は、展示を５ページの役割の大きな四つの柱の中に太文字としても入れていないということが、私は積極的にそういう位置づけなのだという意味でさっきも発言したかった。要するに位置づけ的には展示は大きいけれども、博物館の持っている機能としては展示というのはごく一部だと。機能としてはごく一部で、この構想だと発信・連携、学び・創造に入れるところもある。

これはなかなか微妙なところで、同時に位置づけている。この構想だと、この発信・連携に展示を位置づける。こういうことだと思うが、そのあたりの何かお考えがあれば作ったコンサルタントの方でももちろん結構なので聞かせてもらいたい。

Ⅲの５ページの展示の位置づけと、Ⅳの６ページの中での展示活動の位置づけは結構大事だと思う。どこに展示を位置づけるか。展示を１本の柱として収集・保存、調査・研究、展示、学び・創造とするのが一番簡単だが、そうしないことの意味を僕はそれなりに高く買いたいという気もある。その点を聞かせてもらいたい。

那須野課長・貴重なご指摘をいただいたと思う。そこまで深い考えはないということに結局はなろうかと思うが、今、安曇野市の美術館・博物館の現状を見ると、特に博物館関係はまともなプロセス展示がない。義民記念館に少しあるだけで、総合的にきちんと原始、古代から見る、それを時系列にきちんとたどる展示は一つもない。ケース１で新規博物館を造った場合は、とりわけそういうものは、この展示を綿々としなければならない。それが発信・連携であるか、学び・創造であるかというのは、おっしゃるとおりこちらでも位置づけるけれども、どちらを優先に考えるかという宿題をもらったと捉えている。貴重なご意見をありがとうございました。

委員長・逆に私は、発信・研究で、そこへすぱっと入れるべきだと思う。

委員・異存はない。

委員長・連携というのはここに書いてあるが、実は具体的にはよく分からない。博物館の機能の中で一番大事な展示というのは、学芸員にとっても生命だし、普通に私たちが行って見るのも一番重要な部分だから、むしろ順序からいったら展示、発信ぐらいにして、展示はやはり前看板に持っていったほうがいい気がするが。

委員・７ページに、「フィールドミュージアムの拠点を目指すガイダンス活動」というのを入れている。これは要するに部屋の中の展示であって、環境そのもの空間そのものを展示空間と考える。そういう意味での展示だという。だとすれば、確かにこれは情報発信と、そういう積極的な発信・連携をもっとやるという考え方は、それなりに私としては理解できるかと思った。それが深く理解できればいいかと思う。

委員長・ありがとうございます。今言った部分を資料３の、具体的にはその何ページ分を含めた話になると思うが、入れて欲しい。

委員・それぞれに展開例がついている。読むととても、ああこういうことなんだと分かるが、新博物館構想の文章とすると、全部やらなくてはいけないことになってしまうのではないかと思う。なので、そういうものは文章にしない。

委員長・私もそのとおりだと思う。

委員・すごくやることがたくさんあって、それがなければこういうことをしよう、となっていくが、これがぽんと出てしまうと本当にきちっとやっていかなくてはいけないことになるし、やっていなかったらやはり誰かが何か・・・。なので、今回はないほうがいいと思ったが、どうだろうか。

委員長・ありがとうございます。先ほどのお話のとおり、これを私どもがきちっと文章化するということは、それを要望し、また作られたときにはそれを実行しなければいけないということである。先ほどの話にも出てきたが、全体としては、あれもこれもが多すぎて、そんな大きな博物館が造れるんだったら県立レベルだろうと考えてしまう。ですから展開事例も必要なくて、やれることをきちっとやると。それから今後来る学芸員さんたちを縛り過ぎてもいけないと思うので、委員のような意見が出てきたことは大事だと思う。

ほかに事業・活動構想についてご意見等がなければ資料４に残りの時間を全部吸い上げてしまいたい。資料４が、もし博物館を造るときにどんな展示構想にするか具体的な話なので、本当に一番論議をしたいのは資料４である。

（5）Ｖ展示構想（資料4）

委員長・今まで、安曇野市の博物館はどうあるべきだということを具体的に随分話し合ったつもりである。その上で、展示構想としてどのような展示をしたらいいか。

ここが一番、コンサルさんが得意とするところだが、逆に得意とするだけに、皆さんから見たら、こんなにやるの？とか、これが足りないんじゃないの？などもあるかもしれないので、展示方針について、まずご意見を頂けないか。どんなケースでも結構です。

私は個人的に、やはり方針があり過ぎ。これは全部やれないので、せめて半分か３分の２ぐらいに切って特徴をしっかりつくらないと、本市の博物館としては難しいと思う。書かれていることは全てこのとおり。必要なことだが、本当に全てこれでいいのかという感想を持っている。

まず、展示構想の１展示方針について、何かご意見等があったらお願いいたします。

委員・全体の理念と基本方針、それから役割と事業・活動構想ときて、その中のトップ出しとしての展示構想である。そうしたときに、この展示が理念や基本方針とどうつながっているのかが全く分からない。展示方針は、当然のことながら理念や基本方針を具体化する方法の一つだと思う。とすると、全部が展示でかなわないとしても、基本方針の③について例えば深く展示方針が関わっているとか、そういう流れがあって初めてこの展示構想というのは全体の中に位置づくという気がするが、そこがまだ整理されていない。

そうすると、今、委員長がおっしゃったみたいに４つも５つもある展示方針の中で、どれが一番核の展示の方針か、必然的に整理されてくるだろうと思う。私はそのように力点の置き方を構想との関係で展示の中に活かすべきだと思う。

それで、リンクとか連携がないから、たくさん並んでいて一見無秩序に見える。作ったほうは一生懸命考えて作っているのは間違いないので、それは労だとするが、構想の一部としてはまだ到達していないのではないかというのが私の意見である。

委員・方針の４のフィールドミュージアムの情報発信拠点としてだが、例えば観光案内所等が情報発信することと博物館が情報発信すること、その違いは何かが全然読み取れない。これだったら観光案内所で十分済むのではないか。これが安曇野にとってものすごいもの、に特化すべきだと思う。そういうことを選んで情報発信してほしい。

委員長・ありがとうございます。先ほどから委員も言われている、基本理念から始まって構想等々、この展示がどういうふうに連動しているかということが見えてこないと、最初にうたった部分が実は具

現化されてこない。しかも安曇野市には観光から始まっていろんな部署があって、その部署とのすみ分けもきちんとしなければいけない。そこあたりはきちんと考えるべきだというお二人のご指摘。これはすごく大事だと思う。大変失礼な言い方をすると、さすがに本委員会は皆さんよく考えているなと。場合によっては補佐がやって、それでしゃんしゃんと手を打つがそれをさせない。しかも随分きついことを平気で言っている。委員長としてはとても言いづらいことをよく言っていただいているので、できたらそのまま、ほかにもどんどん言っていって欲しい。

委員・まだ既存施設との整備などのことが明確になっていないので、それがもう少し明確になってきた時点で、展示方針を考えていくべきではないかと思う。それと、博物館に限らず、ほかにも似た施設がたくさんあるので、そことの連携も考えたほうがいいと思う。

委員長・どうもありがとうございます。今の部分は２つあり。将来がよく見えていない中で展示をどうするか。ただ一方では、最初に触れたとおり、私たちは理想として何を展示するべきかということをきちんと論議した上で、大原則として１でいくべきだと。つまり大原則は、未来のためにも新しい博物館を造りたいが、もし駄目な場合は既存のものを利用する。その場合でも、こことここだけの核は消してもらっては困るというようなことは、きちんとやっていかなければならない。そういう意味で展示の構想を少し見ていただきたい。

もう１点、委員が言われたのはすごく大事で、広い視野から見たときに、市の中で重なっているもの、それから安曇野市だけじゃなくて周辺にはたくさん博物館がある。そことのすみ分けも少しは考える必要がある。小さな視点ではなくて広い視点から物事を考えていく。そのために、この基本構想、展示構想は本当にこれでいいかをもう一回見直していただきたいという意見だと思う。

委員・それを実は今日最初にお話を出そうと思っていたら、各条へ入っていったので、発言するチャンスを失ったが、ようやく私が心配していた、気になっていたことに皆さんお話が及んだ。

実は、例えば国営アルプスあづみの公園の中、ゲートをくぐってすぐ左側にかなりの施設がある。あれがどういう方針で今運用されているかは、私は実はよく知らない。ほかにも民間の美術館などが多々ある。それらの目指すものなどを全然調査しなくていいのかという気がずっとしていたが、いかがか。

委員長・今のご意見だが、国、市で役割が違うことはあるが、似た施設をたくさん造って、結局どこへも入らないというのが一番良くないことだと思う。例えば国営公園。あれは自然を売り物にしているのだから、それとどういう関係にあるか、周りの役割、それから訪問者の興味の問題もあると思う。例えば同じお金を出すなら、より大きなほうへ行ってしまうかもしれない。それがそのまま安曇野市の博物館の特徴をどこに置くということと関わってくる。今後事務局でも調べてほしい。

先ほどから何度も言っているとおり、展示の機能などでたくさん入れるのではなく、これをやるためにはこれをやりましょうということを、はっきりある程度絞っていかないといけないだろうと思う。それで今のN委員の意見からすると、自然全体がミュージアムだとして、それから国営公園その他があり、すぐ隣には山の博物館みたいな所があるときに、うちで自然の部分に本当に力を注ぐ必要があるのか。注ぐとしたら、どういうレベルにして、見てもらうためにはどうすればいいのか。その際に、もう一つ問題になってくるのは、観光として見てもらうのと、それから学びとして見てもらうところに、どういう線を引くのかとかいうことは今後考えていかなければいけないだろうと思う。その意味で、周囲の状況を少し考えながら安曇野市の特徴を前提に言動をしたいと思う。さらに連携できるものは連携するべきだと思う。その中で構想が続けられればいいと思う。

これも実は全体と関わってくると思う。私どもの博物館がどのくらいの規模になって、どのくらいの学芸員がいるか。連携という言葉はきれいだが実はほとんど動かず何となく連携が一人歩きするのは良くないだろうと思う。こちらは連携する気があっても、相手方には何の対応もないという場合もたくさんあるので、信州の博物館は周囲をきちんと見渡し、極端な言い方をすると連携も近隣とやる必要はない。もっと遠くと結んで展示のやりとりをする場合だってあるので、そういった広い視野からの展示、博物館のあり方について中に入れ込むように考えていきたいと思う。

委員・最初に、「基本理念と基本方針の実現を目指し」との中にかっこ書きがあるが、基本理念が多少文章

的に変わってくると基本方針も変わってくると思うので、かっこ書きはないほうがいい。こうすると、とても後が大変になってくるという気がする。

委員長・基本理念を相当コンパクトにしてしっかりやっているので、ここでさらに小さくする必要はないし、こういう縛り方をすると後が大変になるので、かっこ書きの文章は抜く。

委員・展示方針だが、これはすごく細かいので、細かくしないでできないか。展示方針をこのくらい細かくしてしまうと、やはりすごく縛られた展示になる。何もできていないのに縛られてしまっているような感覚を受けるので、できればもう少し、今の言葉で緩いというのか、展示する側に考える時間、ものをどうするか決まって、このスペースがあってこうですよとなったときに、こういう展示がしたいという思いができる、といった展示方針にならないか。

委員長・先ほどから言われているのは、しっかり学芸員が勉強しなさいと。こんな枠組みを勝手に作られて、それでやったら終わりではなく、学芸員が育てられるような展示をするためにも、あまり縛りは極端でないほうがいいだろうというご意見で、それはそのとおりだと思う。

一方で、市の博物館で、特徴的にそして最低条件として、ここだけは目を向けてほしいというのと２つあるように思う。それは展示方針の大きな部分だけで、下のほうはなるべく柔らかくするという方向に持っていくようにしたい。

委員・展示方針は一つひとつが独立していなくて、つながっていることだと。自然のまとまりとして、そして展示したところから子どもたちがそういうものに触れたりとか、市民がそういうことで全部流れている気がするので、あまりここにこだわらなくてもいい気がする。

委員長・今言った方針の部分と、構成の最後の部分は具体的な状況になっている。ある意味では同じ部分も出てくるだろう。

最終的に問題になるのは、総合展示の構成だと思っている。一般的に全て似たようなかたちで本当にいいのか。安曇野だったら安曇野で、単語として最低この単語だけは入れておきたいというものをやっておかないと、委員が言われたように、これから先縛られてしまうのはちょっと気になるというのを私は感想としては持っている。

全体を含めて書かれていることは確かにすごく重要だが、具体的にお金のことを含めて言ったときに、鍵になる部分として７ページ、８ページ、９ページまでご意見を。最初に言ったように、もう言っていただくことが大事で、すごく極端な言い方をすると、コンサルタントを少し教育してやろうというぐらいの感じで結構なのでぜひどうぞ。

委員・構成のガイダンス展示からフィールド展示まで、７つ展示の種類がある。これは区別が大変だと思う。どれが何だかたぶん分からなくなると思う。ガイダンス展示はまだいいとしても、総合展示と企画展示とせいぜいこの３つぐらい。それだと種別できると思う。最後のもう一つを、その時々に応じていろいろなものができる、バリエーションができるようなものにしておけばいい。あらかじめ全部名前をつけると、これを全部やるのかという話になると思う。Dから後は１室を確保して、それを順番にやっていくという話だったら分からないことはないが、ちょっと多すぎで学芸員も大変。

委員長・学芸員も同じように言うだろう。

委員・それからもう一つは、展示構想をする場合、今持っている安曇野市の資産、要するに資料がどういう資料でどのぐらいあるのか、その中で展示に活用できるのは何なのか、まず土台をしっかり置いておいた上で方針を決めていかないと。方針というのは、つまり未来へ向かってこうやっていくという部分も含めるが、その部分が見えてこないと思う。つまり今の資産を活かすのと、将来的にこういう部分を膨らませて資産を形成していく部分と、それをやらないと展示をしていく意味がないと思う。展示を通じてそういう資産を豊かにし膨らませていくということがあるので。展示をするのは、ただ単に借りて一時を過ごすぐらいではなく、情報を集めてきたり、ものが集まってきたりする一番の方法だと思う。その方針を決めるというのは、今持っているものは何なのかということをほぼ見つめて、その上で将来構想というか柱を１本から２本、３本つくる。それがたぶん展示方針ではないかと私は思う。この展示方針は安曇野でなくてもいいというもの。

委員・まず、３ページの展示テーマのそこをしっかりもう一回たたき直してほしい。そこのテーマがはっきりすれば、さっき言ったようにどれくらいコンパクト化できるかということが読めると思う。また、いろいろ考えるに、「私たちの住んでいる安曇野を代表する文化の多くは、例えば天蚕、堰。」堰が安曇野らしいかと言われれば、そうでもないと。よその土地だって水不足の所はみんな堰を造っているわけだから。

それから委員と関連するが、私はＦのフィールド展示というのは不要であると。周りにたくさん本物があるのにわざわざスペースを費やして濃縮する必要はないと考える。

ここのところをもう一回しっかりアイデアを出してほしいと思う。私も出せと言われればちょっとは出せるかもしれないが、せっかくコンサルタントがいらっしゃるので、お金を出している以上はしっかり。

委員長・場合によったらこんなこと言うと怒られるかもしれないが、博物館で一番人が来るのは特別展だけで、一回展示をやるともうほとんど行かないというのが、私が今まで見ているところである。

だから最初から２年たったら変わりますと。常設の大きなものではなくて、企画展示をやるぐらいの思い切ったことを考え出す。２年に一回総展示替えというのは、学芸員は死ぬほどの思いをするだろう。でも、学芸員にとっては自己表現ができるという、これはまた喜びでもある。だからその意味では私たちが思い切った発想方法があってもいいのではないかと。

本当に人を集めるつもりだけだったら、一番いいのは特別展だけを、貸し展示のほうがよっぽど集まる。県内には恥ずかしいことに大きな展示をする空間がない。われらの県立歴史館はとても特別展ができる空間すらないというような実態。

委員から、冷静に考えてみると、堰というけど堰はどこでも水田をやっていれば当たり前にある。だとしたら安曇野の堰の特徴は一体どこにあるかということまでしっかり考えないと、展示できるわけがないだろうと。それから自然。自然って安曇野だけが売っているわけではなくて、日本はどこへ行っても自然を売っている。そこを深く考えた上で、展示とは一体何なのか。それが最初にあった、安曇野と文化を守り育てつくることと、どう連動していくかが見えてこなかったら展示になってこない。展示をするということは、本来その理念とどう連動していくかが大事ではないかという委員の意見もあるので、ここまで皆さん言いたいことを言っているのでどうぞ。

委員・私も収集と保存がすごく大事だと思う。だけどそれを総合展示の自然とか歴史とか分けてある。それを一度には出せないので、常設展示は要らなくて、今回は遺跡、今回は安曇族など、そういう特徴のある博物館だったら面白いと思う。

委員長・意見の一つとして、そういうことが意見。何か言いたくてたまらなそうな雰囲気のある人がいますね。

委員・展示はガイダンス展示と総合展示と企画展示でいいのではないかと思う。安曇野市に総合展示してこれだけ見せられるものがあるかというところもちょっと分からないが、総合展示の中に、ここにある展示とかパソコン展示を学芸員さんがやってくれる、というかたちのほうが縛られなくて、もうちょっと自由な発想でできるようなものにしていったほうがいいと思う。もう一つさっきも言ったが、企画展示例は、これがあると縛られそうな気がする。あまり縛るような文章は入らないほうがいいと思う。

委員長・大胆ですね。ものすごく大胆なことを皆さん言っていますね。

委員・総合展示は大事だと思う。展示は博物館活動の宣伝活動ということだから、学芸員の立場からすれば、自分たちの活動が資料や展示資料の収集過程の中で維持できているかどうか測る物差しで、そういう点で大事。スペースが広ければいいというわけではないが、要素としてはぜひ必要だと思う。

それから企画展示は、活動例の話が出たが、この中にツタンカーメン展など外から買ってくるような展示は入っていないと認識した。そういうことは安曇野の博物館ではやるつもりはないと。これは大事なことである。歴史館もさっき委員長が、歴史館の展示室は狭いと言った。その理由は、歴史館の構想時に、外から買ってくることはせず学芸員の自主企画だけの展示をやろうと。ほかの総合博物館の企画展示室というのは大体８００平米とか９００平米ぐらいの３室構成ぐらい。それだとツタンカ

ーメン展とかエジプトのミイラ展などの外から買ってくる展示も収まる。だけど、歴史館の場合はそういうことは一切やらない。学芸員が調査・研究した成果、あるいは整理したものを展示するという構想だったから、歴史館が持っている企画展示室スペースは３００平米。結果としてそれがいいかどうかは別にして、このページを見るとそういうことはしないと意思表示していると私は読み取ったが、企画展示の構想はそういうお考えか。

那須野課長・まず、総合展示については、基本的に私も個人的には同じ考えである。やはり旧５町村が１つになって、それぞれの旧町村ごとに主な歴史の特徴というのがある。例えば明科だと明科廃寺があったり大逆事件があったり、それぞれ旧町村ごとにそういうものがあってそれを全部あぶり出す作業がどうしても必要で、それは市史編さんなどを介して、きちんとした安曇野市としての統一の歴史観というものに結び付いていくと思うが、それを多くの人に、安曇野市の歴史はこうだと知っていただくために、総合展示でそれをきちんとするという。それは確かにおっしゃるとおりスペースがあってのことで、ケース２を選択した場合、それは実際ここに実現できないというのはもう明らかである。そこでどうしていくか。買い求めてまでやるかという点については、予算が厳しくなることも予想されて難しい。ならば、やはりあの中できちんとやるべきだということになっていくのは、ある程度必然のような気がする。

ケース２において、限られたスペースの中で常設展もあり企画展もありというかたちをとると、どうしても中途半端にならざるを得ない。そこは今、学芸員とも話しながらいろいろ出ているところである。

周りをちょっと見渡すと、「穂高交流学習センター　みらい」にギャラリーがある。「豊科交流学習センター　きぼう」にもギャラリーがある。今度、三郷の交流学習センターを造ってここにもギャラリーができるということで、今後は交流学習センターがいろんな地区に広がっていくと、図書館とギャラリーというセットのスペースがどんどんでき、展示場所というのは増えていく。

これは可視化の中である程度やっていけばいいという考えもあるが、一方で市のほうで市民に見ていただきたいものを展示するいい機会だとは思うが、学芸員が対応し切れないということになってくると、せっかく飾る所がありながら、その飾る体制ができていないことにもなってくる。

それからK委員から別の会議で、学校のほうも学力とか体力向上とかいろいろなものに追われて、子ども自体を社会的な施設に連れて行くところまでつなげられないという悩みを持っているとお伺いした。ところが、こちらから昔の暮らし体験講座、蓑、笠を着たりとか火打ち石を打ったりというような企画をすると、消化し切れないぐらいに学校から応募がある。ですから、学校に行く場合は非常に子どもたちも喜んでもらえるというのは感じている。いっそのこと博物館は中央に１つにまとめるのではなく、外へ出ていって展示をする。もしかしたらいろいろな展示の場所は、学校の中にもある。市内小中学校は１７校あるから、空き教室の１つも貸してもらい全部紹介すれば面白い展示ができるかもしれない。そういうアイデアなんかも出ている。余談になったが、企画展示については守りの体制だけではなく、発信するという視点も含めてもう１回練り直してみようと。今ご議論で出ていたことと同じである。

委員長・どうもありがとうございました。

委員・学芸員の方はこの場にいるか。

那須野課長・博物館の学芸員は、豊科郷土博物館の学芸員が来ている。

委員・さっきもいろいろな話が出てきているが、私たちは現場で学芸員の方がどんな苦労をして、何を悩んでいるかということが全然分からなくてこんなことを言っているが、展示に関しては学芸員の方の、いや、それはこういうふうに考えている、安曇野市の現状はこうだ、これを大事にして展示していきたいと思っているプランが学芸員の中であるなど、そういうご発言をいただくと実態も分かり、私たちも学芸員のほうに沿った考えが出せるのかと思った。

那須野課長・今のご意見ありがとうございます。実は学芸員に集まっていただいて何度か話をしているが、この構想案の構成からちょっと議論をしていないというのは確かにある。ただ、この内容を少し深めていかなくてはいけないという状況は把握しており、近日中にやる予定にもなっている。そこで生の声、

直接的な意見を集約し、皆さんにお伝えしたいと思う。

（6）その他

委員長・ありがとうございました。時間の関係もあり、私の不手際で申し訳ありませんが、市民アンケートについてきちっと確認だけさせていただきたい。事務局から市民アンケートについて説明していただいて、その上でご意見を頂戴したいと思う。

那須野課長・市民アンケートは、先般のご意見の部分を修正して既に発送した。

委員長・一応そういうことで。

もしほかにございましたら。そうでなければぴったりの時間に終えることができるということで神業的だがこれで終わらせていただいてよろしいでしょうか。

那須野課長・皆さんの今日出していただいた意見を、次回への課題ということで整理してみたが、１つには基本理念とか経営方針の関連をもう１回つながりを見直し、具体的に絞ったテーマを再検討して次回ご提示したい。その中で事務局とか学芸員とか、こちらの当事者の意見をしっかり集約して入れてきたいと思うのが１点。

２点目、事業とか展示の関係の内容について、総花的と意見を頂いたので、安曇野の実態に即した内容に集約して、分かりやすい表現、文章構成に見直して次回ご提示したい。

３点目、ケース１については一応今回３０００平米を想定してやっていくといただいたが、今日の構想の中の意見をいろいろお聞きしたので、もうちょっとケース１について具体的なイメージが持てるような資料をご用意いただき、１についての議論等もなかったので、もうちょっとここについて最終的に構想の中の内容を固めると１のイメージも湧いてくる感じがしたので、そんな資料を用意させていただく。

それから金額の設定のページだが、非常に微妙な問題ではあるが、何らかのかたちで金額をお伝えするようなことができればと思っている。

その４点について、次回お話し合いの中でまた議論いただけたらと思う。よろしくお願いします。

委員・アンケート調査の結果は、新構想を出す前に私たちは知ることができるか。

那須野課長・そのとおりです。

４．　その他

委員長・どうもありがとうございました。以上で本日の会議を終わります。資料１でも言ったように、予定として次回は施設構想その他今日の確認をした上で進んでいきたい。私は、最悪の場合にはもう１回ぐらい追加せざるを得ないかなと思っているが、今のところは私が思っている以上に順調に来ている。これも常に皆さまのご協力のおかげだと思っております。

なお、いつもそうだが、熱心に発言していただきまして本当にありがとうございます。

それでは、これで事務局にお返しいたします。

那須野課長・どうもありがとうございました。

事務局から、次回の日程について課長とも日程調整させていただき、一方的で申し訳ございませんが、６月２３日（火）、午後１時半から予定している。今回と場所が変わり、同じ３階の東南の角の会議室３０１で、またご通知を差し上げるのでご予定をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に橋渡教育長より一言ごあいさつを申し上げます。

５．　閉会

橋渡教育長・安曇野市の博物館はどうあるべきかということについて、いつもながら委員長の笹本先生の本質

とぶれないリードの下に、委員の皆さまの本当に活発なご意見を頂きましてありがとうございました。私ども事務局も、それぞれに成長しなければいけないなと、そんなことを感じた時間だった。本当にどうもありがとうございました。

北條部長・以上をもって、第６回の安曇野市新市立博物館構想策定委員会を閉じる。どうもありがとうございました。

以上